

学校教育目標

「心豊かに主体的に生きる生徒の育成」～西中魂の伝承～

保育所・小学校・中学校・高等学校が連携・協働し、「チーム西土佐」として地域に根ざした教育活動を実践し、地域・故郷を誇りに思う人材を育てるとともに、『知徳体のバランスが取れた生きる力をもつ生徒』の育成を目指す。

- ① 創意ある学習指導・生徒指導の推進
- ② チームワークの良い教職集団の構築
- ③ 地域との協働の推進

西
中
魂

伝統のあいさつを行う
積極的な行動をとる
何事も全力でやりきる

研究主題

「生き方につながる豊かな学力の保障」

～主体的・対話的で深い学びの推進～（言語活動と教科間連携）

1 主題設定の理由

本校は生徒間で伝承されている「西中魂」が学校生活全般で息づき、真剣に授業に向かう姿勢が定着している。その良さを生かすとともに、生徒集団や個々の生徒の課題を克服し、全ての生徒が自分の望む進路実現に主体的に向かえるよう支援するためには、生徒一人ひとりの学習状況を複数教員で見取り、全教職員で共有すること、全教育活動における学びのつながりを意識して授業を質的に向上させることが必要である。

そこで、今年度は、チーム会での協議を核とし、教師間で互いの実践に学び合う「チーム西土佐」の構築を図っていく。組織として、生徒一人ひとりの良さを伸ばしながら、教育活動全体で言語活動の充実を推進し、今求められている「主体的・対話的で深い学び」を追究することが、どの生徒にも豊かな学力を保証することにつながると考え、本主題を設定した。

2 今年度の指定関係

- 中学校組織力向上のための実践研究事業「教科間連携」型拠点校（高知県）
- オリンピック・パラリンピック教育推進事業（高知県）
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善（教科間連携・教科教育）、保幼小中高連携（四万十市）

3 研究仮説

- (1) 授業と西中タイム、家庭学習とのサイクル化を行い、基礎基本を繰り返し学習させることで、基本的な事項の定着が図れ、授業がより深まるだろう。
〈基礎基本の定着〉
- (2) どのように表現すればよいかの型を示すとともに、表現（話す・話し合う・発表する・書くなど）

の場を多く設定し、適切な評価活動（教師から、生徒から、生徒相互で、外部から）を行うことで、生徒は自分の言葉で自信をもって表現することができるようになるだろう。 **〈言語活動の充実〉**

(3) 週に1度のチーム会を定例化し、教科間で「資質・能力を働かせた言語活動」について自由な協議を重ねることで、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が推進されるだろう。

〈教科間連携・OJT〉

(4) 授業づくりを推進する『チーム会』、「知」「徳」「体」の向上を計画的に推進する『研究部会』、企画・計画した内容を生徒指導に落とし込み、生徒の主体的な活動を創造する『学年会・生徒会・部活顧問会』（学級活動・生徒会活動・部活動）が連動することで、学校全体で行う教育活動が教育目標の達成に向かっていくだろう。

〈カリキュラムマネジメント〉

(5) 特別支援の視点を大切にし、日常的に生徒情報を共有しながら生徒指導をすることで、どの生徒も安心して学校生活を送ることができるだろう。

〈不登校対策〉

4 検証方法・数値目標

仮説	方 法	目標数値	
(1)	「授業アンケート」(生徒)	10「西中タイムや家庭学習は自分の力になっていると思う」	肯定的評価 80%以上
	高知県学力定着状況調査	基礎分野の平均正答率	県平均+5ポイント以上
(2)	研究授業 「授業の振り返り」 (生徒用)	☆表現活動に係る項目 4「理由をもとに自分の考えを表現」 5「友だちや先生の意見を聞き、自分の考えを広げることができた」	肯定的評価 80%以上
	研究授業 「授業力チェックシート」 (授業者・参観者用)	☆手立ての工夫に係る項目 4「教科の特質を生かした方法で自分の考えを表現できるよう手立てを工夫している」 5「ねらいを達成するために話し合いや交流の目的を明確にしている」	肯定的評価 80%以上
(3)	教科間連携アンケート	6「チーム会は授業改善に役立つ」 7「自分の考えを自由に言える」 8「チーム会で尊重されている」 9「他の意見を尊重している」 10「OJTが機能している」	肯定的評価 80%以上
(4)		1「学校経営方針を理解し実践している」	肯定的評価 90%以上
(5)	不登校発生率		3%
	いじめ発生件数		0件